

2018年度 第2四半期 決算概要

I. 2018年度 上期 連結業績概要 2018年度 通期 連結業績予想

II. 補足資料

シャープ株式会社
2018年10月30日

【見通しに関する注意事項】

本資料に記載されている内容には、シャープ株式会社及び連結子会社（以下、総称して「シャープ」という）の計画、戦略、業績など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は過去または現在の事実ではなく、現時点で入手可能な情報から得られたシャープの仮定や判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、シャープの実際の業績、事業活動、財務状況は、これらの見通しと大きく異なる場合があります。また、新たな情報、将来の事象、その他にかかわらず、シャープが将来の見通しに関する記述を見直すとは限りません。なお、業績など実際の結果に影響を与えうるリスク、不確実性及びその他の要因としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) シャープの事業領域を取り巻く経済情勢
- (2) シャープの製品やサービスの需要動向の変化や価格競争の激化
- (3) 為替相場の変動(特に、米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替相場)
- (4) 諸外国における貿易規制等の各種規制
- (5) 他社との提携、アライアンスの推進状況
- (6) シャープに対する訴訟その他法的手続き
- (7) 製品やサービスについての急速な技術革新 など

※本資料の記載金額は、億円未満切り捨て表示としています。

※前年増減額等は、表示された億円単位の金額を元に算出しております。

I . 2018年度 上期 連結業績概要 2018年度 通期 連結業績予想

SHARP

1

- ・ 本日はご多忙な中、お集まり頂きありがとうございます。
また日頃は、当社の広報(IR)活動にご協力頂き、まことにありがとうございます。
- ・ それでは、お手許にお配りしておりますパワーポイント資料に沿って、説明いたします。

2018年度 上期 連結業績概要(1)

- 「量から質へ」の転換に加え、台風による物流への影響などもあるなか、売上高は前年同期を上回り、利益も好調に推移
- 継続的に体質改善を進めていることもあり、親会社株主に帰属する四半期純利益は2割に迫る伸長
利益率は、半期として過去最高となる
- 自己資本比率は、引き続き上昇、21.7%となる

SHARP

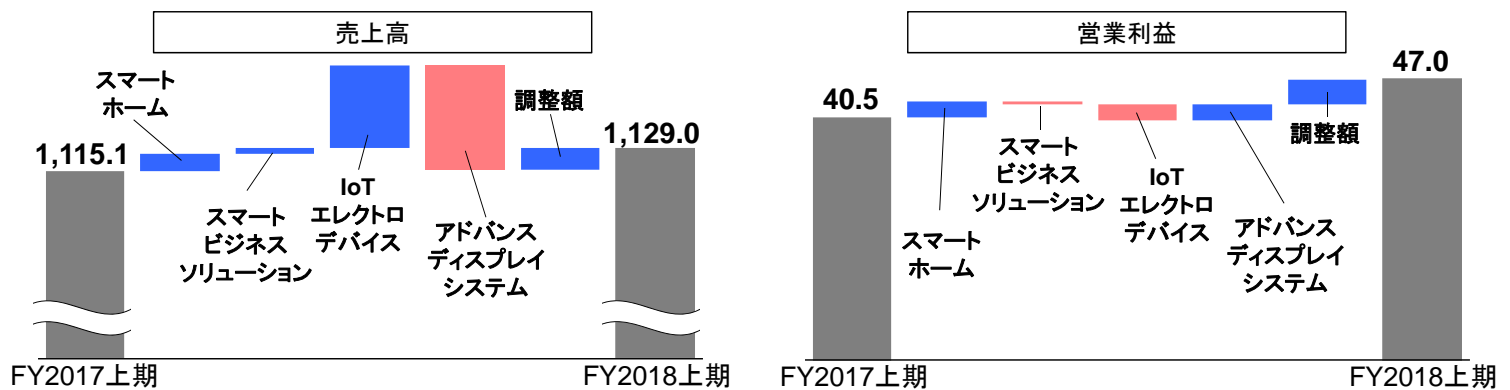
2

- まず、2018年度 上期の連結業績概要です。
- 「量から質へ」の転換に向けた取り組みの一環として、流通在庫を勘案し、中国でテレビ販売を抑制したほか、台風による物流への影響などもありましたが、売上高は前年同期を上回り、利益も好調に推移しました。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益については継続的に体質改善を進めていることもあって、2割に迫る伸長となり、利益率は、半期での開示を始めて以来、過去最高となりました。
- また、自己資本比率は引き続き上昇しており、21.7%となりました。

2018年度 上期 連結業績概要(2)

(単位:十億円)

	2017年度	2018年度		2018年度 上期予想 (10/24)
	上期	上期	前同比	
売上高	1,115.1	1,129.0	+1.2%	1,125.0
営業利益	40.5	47.0	+15.9%	46.5
経常利益	41.1	43.2	+5.1%	43.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	34.7 (3.1%)	40.9 (3.6%)	+17.8%	40.0
平均為替レート				
ドル円	110.07	109.27		
ユーロ円	124.79	128.34		



SHARP

3

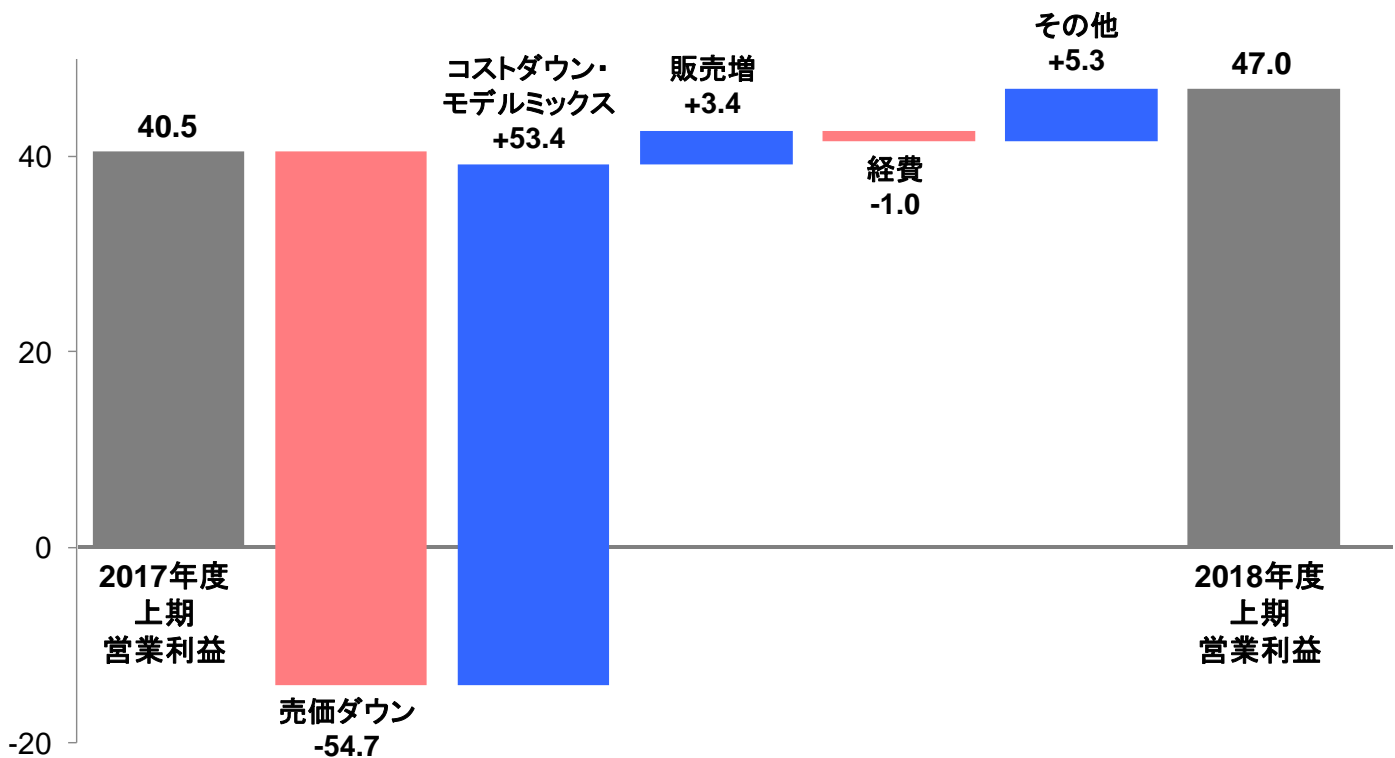
- ・ 次のスライドに、2018年度 上期の業績数値をまとめております。
- ・ 売上高は、前年同期比1.2%増の1兆1,290億円となりました。
- ・ 利益は、引き続き好調に推移し、期初の業績予想を上回りました。

営業利益は、前年同期比15.9%増の470億円、
経常利益は、前年同期比5.1%増の432億円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、
継続的に体質改善を推進している効果もあって大きく伸長し、
前年同期比17.8%増の409億円となりました。

2018年度 上期 営業利益増減分析(対前年同期)

(単位:十億円)



SHARP

4

- ・ 次のグラフは、営業利益の前年同期比での増減分析です。

ご覧のように、上期の営業利益は470億円となっており、前年同期から、65億円の増益となっております。

- ・ 「売価ダウン」による547億円の利益減はあったものの、534億円の「コストダウン・モデルミックス」による収益の改善、34億円の「販売増」に伴う利益の増加などがあり、前年同期を15%以上も上回る収益を確保しています。

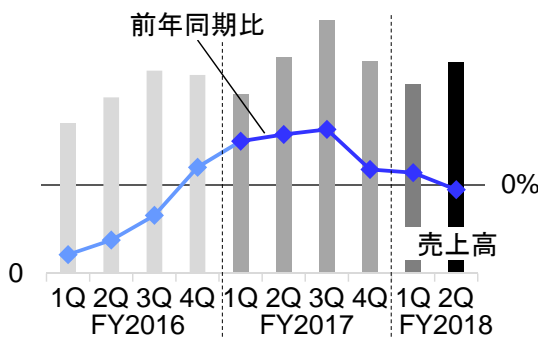
2018年度 第2四半期 連結業績概要

・親会社株主に帰属する四半期純利益率は、四半期での開示を開始して以来、過去最高

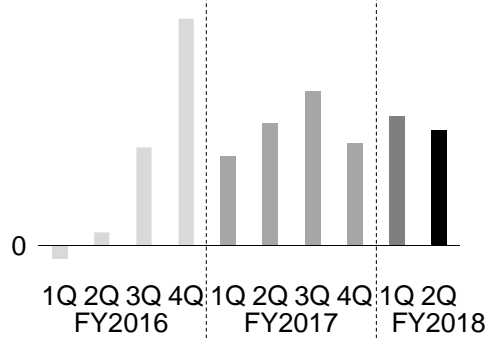
(単位:十億円)

	2017年度	2018年度	
	2Q	2Q	前同比
売上高	608.7	595.1	-2.2%
営業利益	23.4	22.2	-5.3%
経常利益	23.9	21.9	-8.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	20.2 (3.3%)	21.7 (3.7%)	+7.2%
平均為替レート			
ドル円	110.04	110.46	
ユーロ円	128.88	128.12	

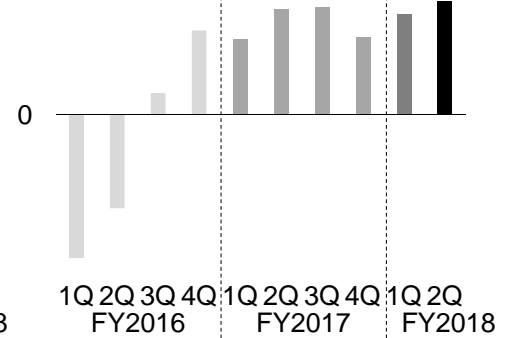
売上高



営業利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



SHARP

・次は、2018年度 第2四半期の業績です。

・売上高は、「量から質へ」の転換に向けた中国でのテレビ販売抑制に加え、台風の影響などもあったことから、前年同期比2.2%減の5,951億円となりました。

・利益については、
営業利益が、前年同期比5.3%減の222億円、
経常利益が、前年同期比8.4%減の219億円となりましたが、
親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比7.2%増の217億円となりました。

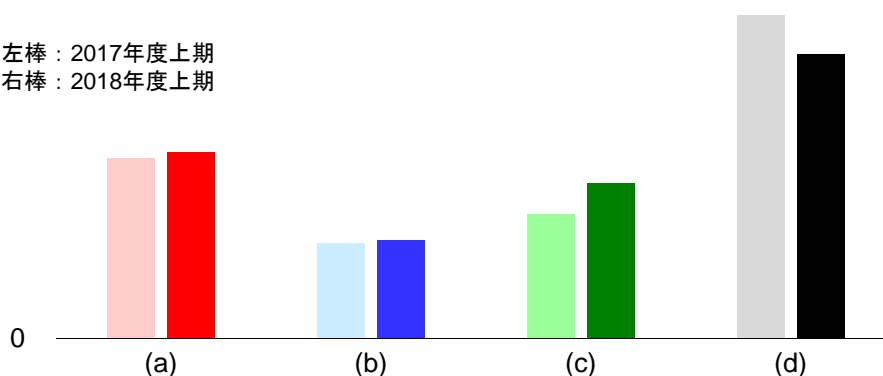
体質改善が進んでおり、売上が前年同期を下回った第2四半期においても、着実に最終利益を上げることができております。

セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2017年度			2018年度			
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	前同比
(a) スマートホーム	130.2	160.4	290.6	150.5	150.0	300.6	+3.4%
(b) スマートビジネスソリューション	70.3	84.0	154.4	76.5	81.9	158.4	+2.6%
(c) IoTエレクトロデバイス	85.0	115.4	200.4	113.3	137.4	250.8	+25.1%
(d) アドバンスディスプレイシステム	249.6	271.9	521.6	211.1	247.1	458.2	-12.1%
小計	535.3	631.9	1,167.2	551.5	616.6	1,168.1	+0.1%
調整額	-28.8	-23.1	-52.0	-17.6	-21.4	-39.1	-
合計	506.4	608.7	1,115.1	533.8	595.1	1,129.0	+1.2%

左棒：2017年度上期
右棒：2018年度上期



※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

6

SHARP

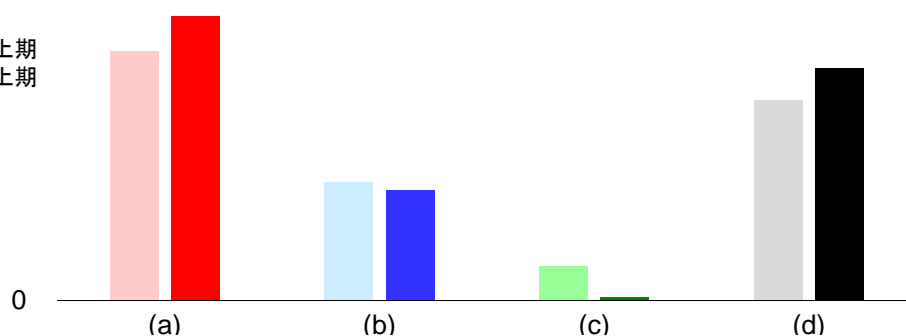
- ・次のスライドは、セグメント別売上高の一覧です。
- ・スマートホームの上期の売上高は、前年同期比3.4%増の3,006億円となりました。「AQUOS Rシリーズ」や「AQUOS sense」など携帯電話が前年同期を上回りました。このほか、エアコンが大きく伸長し、掃除機や洗濯機なども引き続き好調でした。また、エネルギーソリューション事業では、海外EPC事業が堅調でした。
- ・スマートビジネスソリューションは、海外の複合機などが好調で、前年同期比2.6%増の1,584億円となりました。
- ・IoTエレクトロデバイスは、スマートフォン向けカメラモジュールのほか、半導体など独自デバイスも伸長し、前年同期比25.1%増の2,508億円となりました。
- ・アドバンスディスプレイシステムは、中国でテレビの販売を抑制したことなどから、前年同期比12.1%減の4,582億円となりました。液晶テレビ事業では、アジアでの売上が大きく伸長し、販売を抑制した中国向けを除いた売上は、増加しています。ディスプレイ事業は、中国向けスマートフォン用パネルの販売が減少した一方、大手顧客向けを中心にPC・タブレットなどの中型パネルが好調で、売上が増加しました。

セグメント別営業利益

※()内の数字は営業利益率です。 (単位:十億円)

	2017年度			2018年度			
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	前同比
(a) スマートホーム	9.9 (7.6%)	10.5 (6.6%)	20.4 (7.0%)	11.8 (7.9%)	11.4 (7.6%)	23.3 (7.8%)	+13.9%
(b) スマートビジネスソリューション	3.8 (5.4%)	5.9 (7.0%)	9.7 (6.3%)	3.9 (5.2%)	5.0 (6.1%)	9.0 (5.7%)	-7.3%
(c) IoTエレクトロデバイス	0.9 (1.1%)	1.8 (1.6%)	2.7 (1.4%)	0.6 (0.6%)	-0.3 (-0.3%)	0.2 (0.1%)	-89.9%
(d) アドバンスディスプレイシステム	6.7 (2.7%)	9.6 (3.5%)	16.3 (3.1%)	10.5 (5.0%)	8.4 (3.4%)	19.0 (4.1%)	+16.1%
小計	21.4 (4.0%)	27.8 (4.4%)	49.3 (4.2%)	27.0 (4.9%)	24.5 (4.0%)	51.6 (4.4%)	+4.6%
調整額	-4.3	-4.4	-8.7	-2.2	-2.3	-4.6	-
合計	17.1 (3.4%)	23.4 (3.9%)	40.5 (3.6%)	24.8 (4.6%)	22.2 (3.7%)	47.0 (4.2%)	+15.9%

左棒：2017年度上期
右棒：2018年度上期



SHARP

7

- ・ 続いては、セグメント別営業利益の一覧になります。
各セグメントとも黒字を継続しております。
- ・ スマートホームの営業利益は、前年同期比13.9%増の233億円となりました。
携帯電話や白物家電の増収に伴う利益の増加があったことに加え、
経費削減に取り組んだこともあり、大幅な増益となりました。
- ・ スマートビジネスソリューションは、販売が伸長したものの、
価格下落の影響などから、前年同期比7.3%減の90億円となりました。
- ・ IoTエレクトロデバイスは、コストダウンに取り組んだものの、
成長投資に伴う償却費の増加などがあり、2億円の黒字にとどまりました。
- ・ アドバンスディスプレイシステムは、前年同期比16.1%増の190億円となりました。
中国で液晶テレビの販売を抑制したことから、減収となりましたが、
コストダウンやモデルミックスの改善などにより、
液晶テレビ事業・ディスプレイ事業とも、増益となりました。

営業外損益・特別損益・法人税等の概要

(単位:十億円)

	2017年度			2018年度			
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	前同 増減額
営業利益	17.1	23.4	40.5	24.8	22.2	47.0	+6.5
営業外損益	+0.0	+0.4	+0.5	-3.5	-0.2	-3.7	-4.2
内:支払利息	-1.2	-1.2	-2.4	-1.1	-1.0	-2.1	+0.3
為替差損益	+2.3	+3.3	+5.7	-4.6	+0.9	-3.6	-9.3
持分法による投資損益	+0.5	+0.3	+0.9	-2.3	-0.9	-3.2	-4.1
経常利益	17.1	23.9	41.1	21.2	21.9	43.2	+2.1
特別損益	-0.7	+0.0	-0.6	+0.8	+0.5	+1.3	+1.9
内:段階取得に係る差損	-0.9	-0.5	-1.4	-	-	-	+1.4
税前利益	16.4	23.9	40.4	22.1	22.4	44.5	+4.1
法人税等 他	-1.9	-3.7	-5.6	-2.9	-0.6	-3.6	+2.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	14.4	20.2	34.7	19.2	21.7	40.9	+6.2

SHARP

8

- ・ 次のスライドは、主な「営業外損益」・「特別損益」・「法人税等」の概要です。
- ・ 2018年度 上期には、「営業外損益」として、「為替差損」や「持分法による投資損失」などはありませんでしたが、前年度同様、大きな営業外損失、特別損失などは発生していません。

連結貸借対照表推移

- ・現預金は、デバイス売上の伸長に伴う売掛金の増加もあり、6月末の3,052億円から2,943億円に
- ・純資産は、6月末比281億円増の4,317億円に
- ・自己資本比率も、21.7%となり、6月末からさらに改善

(単位:十億円)

	2017年度		2018年度			2017年度		2018年度	
	3月末	6月末	9月末	3月末		6月末	9月末		
現預金	422.3	305.2	294.3	支払手形・買掛金	429.4	385.3	400.6		
受取手形・売掛金	471.5	442.1	512.7	短期借入金	81.2	83.2	68.6		
たな卸資産	219.7	252.0	232.6	1年内社債	10.0	10.0	40.0		
その他	103.6	120.8	109.0	その他	312.7	272.2	266.7		
流動資産計	1,217.1	1,120.3	1,148.8	流動負債計	833.4	750.8	776.0		
有形固定資産	428.5	422.7	425.2	社債	30.0	30.0	0.0		
無形固定資産	44.7	45.8	45.3	長期借入金	507.0	506.7	529.0		
投資その他資産	217.8	244.8	258.7	その他	136.2	142.4	141.4		
固定資産計	691.2	713.3	729.3	固定負債計	673.2	679.2	670.4		
繰延資産	0.0	0.0	0.0	純資産	401.7	403.6	431.7		
資産合計	1,908.4	1,833.7	1,878.1	負債純資産合計	1,908.4	1,833.7	1,878.1		
期末日レート				自己資本比率	19.8%	20.9%	21.7%		
ドル円	105.27	109.54	112.58						
ユーロ円	129.08	126.38	130.65						

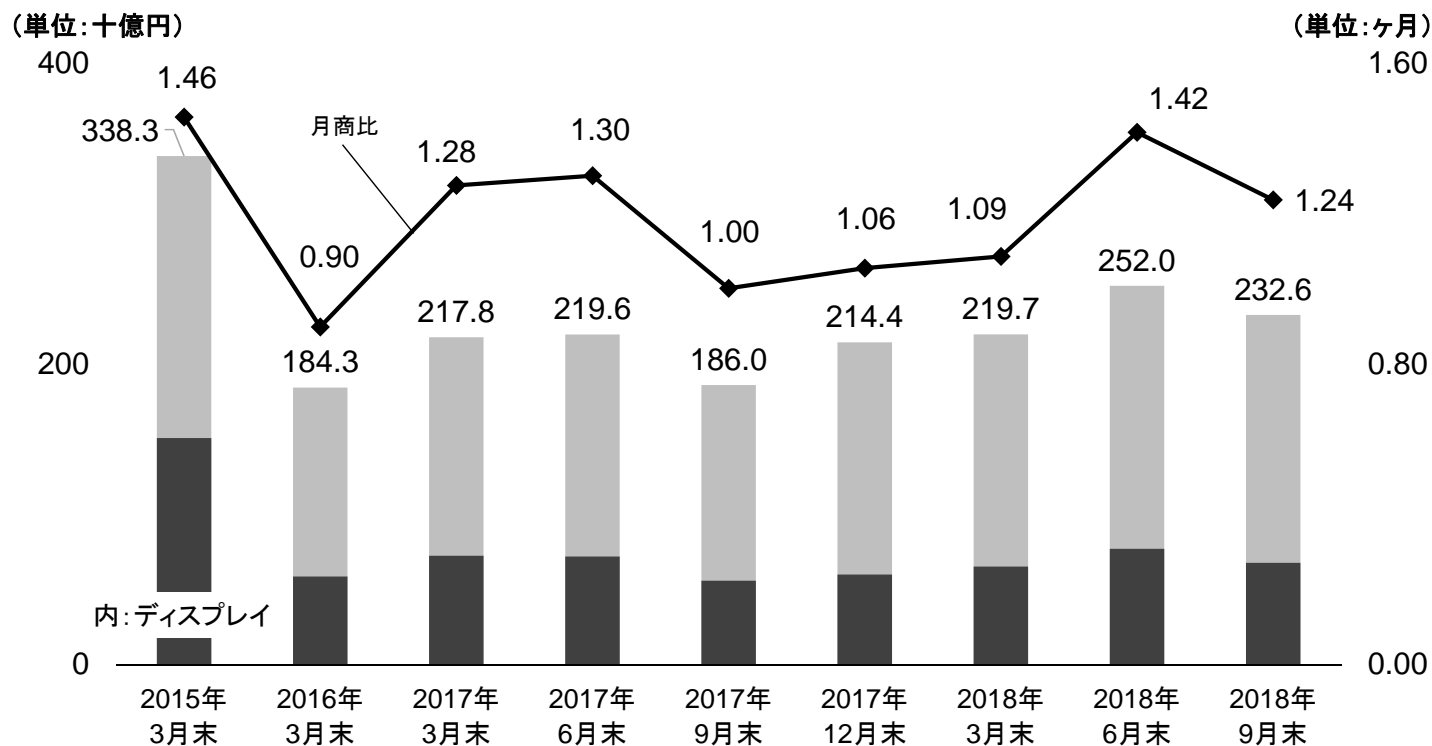
SHARP

9

- ・ 次のスライドは、貸借対照表の推移です。
- ・ 2018年度 上期末の「現預金」は、IoTエレクトロデバイスやディスプレイなどデバイスの売上増に伴う売掛金の増加もあって、2018年度 第1四半期末の3,052億円に対し、2,943億円となっています。
- ・ 2018年度 上期末の「純資産」は、着実な利益の積み上げにより、2018年度 第1四半期末の4,036億円から、4,317億円へと増加しております。
- ・ 「自己資本比率」についても、2018年度 第1四半期末の20.9%から、21.7%へと上昇しています。

たな卸資産の推移

- ・たな卸資産は、2018年6月末の2,520億円に対し2,326億円に減少
- ・今後の販売計画等を勘案し、引き続き適正な在庫水準を維持



SHARP

10

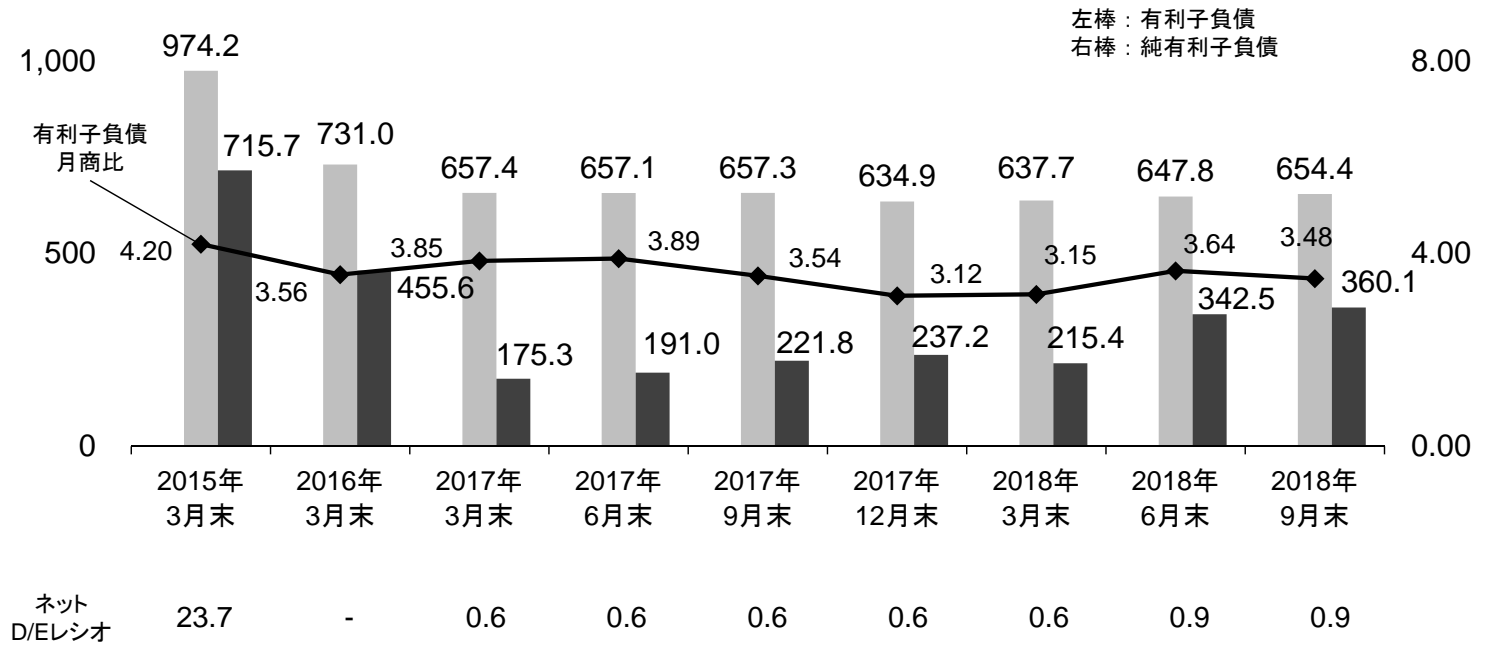
- ・ 次のスライドは、「たな卸資産」の推移です。
 - ・ 2018年度 上期末の「たな卸資産」は、2018年度 第1四半期末の2,520億円から、2,326億円に、月商比では1.42ヶ月から、1.24ヶ月に減少しています。
 - ・ 垂直統合型ビジネスを推進していることや、ディスプレイ事業の中型シフトに伴い、車載など製品ライフサイクルの長いアプリケーションの比率が増加していることもあり、適正在庫の水準は少しずつ変化しております。
- 今後も、需要動向や販売リスクに加え、こうした変化も適時把握し、引き続き、事業ポートフォリオに応じた適正な在庫水準を維持してまいります。

有利子負債の推移

- ・2018年9月末の有利子負債は、2018年6月末の6,478億円から6,544億円に
月商比では3.64ヶ月から3.48ヶ月に
- ・純有利子負債※は、3,425億円から3,601億円に

(単位:十億円)

(単位:ヶ月)



※純有利子負債：有利子負債 - 現預金

SHARP

11

- ・ 次のスライドは、有利子負債の推移です。
- ・ 2018年度 上期末の有利子負債は、
2018年度 第1四半期末の6,478億円に対し、6,544億円となっております。
純有利子負債は、
売上増に伴う売掛金の増加などから、現預金が減少したこともあり、
2018年度 第1四半期末の3,425億円に対し、3,601億円となっております。
- ・ 引き続き在庫の適正化や、効率的な設備投資の実施に努め、
キャッシュ・フローの改善を図ります。

- 中期経営計画は順調に進捗
- 上期の実績、足もとの状況を勘案し、通期業績予想を見直す
- 下期の売上高は、上期から大きく伸長する見込み
- 利益は、年度を通じて順調に推移する見込み、各利益とも通期予想を上方修正

- 次のスライドは通期の業績予想になります。
- 中期経営計画は、順調に進捗しております。
上期の実績や足元の状況などを勘案し、通期の業績予想を修正しています。
- 後ほど、改めて説明させていただきますが、
8KとAIoTを軸に「量から質へ」の転換が順調に進捗していることに加え、
ローカルニーズを確実に捉えた商品の展開により、
ASEANをはじめ、グローバルで事業拡大が見込まれること、
さらには、東芝クライアントソリューション株式会社の子会社化や
季節要因などもあることから、
下期の売上高は、上期から大きく伸長する見込みです。
- また、利益は、年度を通じて順調に推移すると見ています。
体質改善の効果もあり、上期の実績が予想を上回ったことなどから、
各利益とも、通期予想を上方修正しています。

2018年度 通期 連結業績予想(2)

- ・上期実績、足もとの状況を勘案し、通期の業績予想を見直す
- ・下期については、4月26日に公表した業績予想に比べ、売上はほぼ変更なし「量から質へ」の転換を進めることから、最終利益は10%超の上方修正

(単位:十億円)

	2018年度 (実績)	2018年度 (今回予想)			2018年度 (4/26予想)	
		上期実績	下期差引	通期予想	前年比	下期予想
売上高	1,129.0	1,561.0	2,690.0	+10.8%	1,590.0	2,890.0
営業利益 (利益率)	47.0 (4.2%)	65.0 (4.2%)	112.0 (4.2%)	+24.3%	64.0 (4.0%)	110.0 (3.8%)
経常利益 (利益率)	43.2 (3.8%)	57.8 (3.7%)	101.0 (3.8%)	+13.1%	57.0 (3.6%)	100.0 (3.5%)
親会社株主に帰属する 当期純利益 (利益率)	40.9 (3.6%)	49.1 (3.1%)	90.0 (3.3%)	+28.2%	44.0 (2.8%)	80.0 (2.8%)

SHARP

13

- ・ 次のスライドに業績予想の数値をまとめております。
- ・ 売上高は、前年度比 10.8%増の2兆6,900億円としております。
- ・ 利益は、
営業利益を、前年度比 24.3%増の1,120億円、
経常利益を、13.1%増の1,010億円、
親会社株主に帰属する当期純利益を、28.2%増の900億円としております。
- ・ 下期につきましては、
4月26日に公表した業績予想に対し、売上は ほぼ据え置き、
「量から質へ」の転換を進めることから、
最終利益は 10%超の上方修正となっております。

2018年度 下期における主な取り組み

8KとAIoTを軸に、「量から質へ」転換を進める

欧州

・AQUOS 8Kを筆頭にテレビのラインアップを拡大

中国

・会長の戴が自ら指揮し、「量から質へ」転換を進める
-8KやAIoTを活用したテレビの高付加価値化
-白物家電などテレビ以外の商品ラインアップ拡充

ASEAN

・積極的な事業戦略説明、製品プロモーション推進
・ローカルニーズを捉えた製品の展開
・各国政府との強固な関係構築

国内

テレビ

・新4K8K衛星放送の開始に向け、4Kテレビ、8Kテレビを投入
・AIoT機能を拡充

携帯電話

・自社国内製有機EL採用モデルの商品化

白物家電

・AIoT搭載家電のラインアップを拡大
・機器連携サービスの強化

デバイス

IoTエレクトロデバイス

・長年に亘って培った高い技術力を活かし、複眼化が進むスマートフォン向けカメラモジュール需要を着実に取り込む

ディスプレイ

・シャープ独自のIGZO技術なども活用し、PCやタブレット、車載など中型パネルへのシフトを加速

その他

・東芝クライアントソリューション株式会社の子会社化など

SHARP

14

- ・ 次のスライドは、下期における主な取り組みになります。
この下期は、8KとAIoTを軸に、「量から質へ」の転換を進めております。
- ・ まず、グローバル事業拡大の取り組みです。
ASEANで当社の事業は順調に伸長しています。今後も、積極的なプロモーションとローカルニーズに対応した製品の投入を進め、引き続き着実に拡大してまいります。
また、中国では、これまで鴻海グループの販売会社を総代理店として、テレビ事業を拡大してきました。その結果、事業の基礎が構築できたことから、今後は、会長の戴が自ら指揮を執り、事業の高付加価値化を加速していきます。
さらに、欧州でも、8Kモデルを筆頭にテレビのラインアップを拡充し、事業を拡大していきます。
- ・ 次は国内での取り組みになります。
テレビ事業では、12月に始まる新4K8K衛星放送に対応した4K、8Kモデルの新製品を投入します。
また、携帯電話事業では、当社初となる有機ELパネルを採用したモデルを商品化しています。
こうした取り組みにより、さらなる市場シェアの獲得をめざしてまいります。
このほか、AIoT搭載家電のラインアップを拡大するとともに、機器連携の強化も進めていきます。
- ・ 次はデバイス事業の取り組みです。
IoTエレクトロデバイスでは、スマートフォン向けカメラの複眼化が進んでいることから、当社の技術力を活かし、そうした需要を確実に取り込んでいきます。
また、ディスプレイ事業では、当社独自のIGZO技術などを活かし、引き続き、PCやタブレット、車載など中型パネルへのシフトを進めていきます。
- ・ これらに加え、東芝クライアントソリューション株式会社の子会社化や季節要因などもあることから、下期の売上は、上期から大きく伸長する見込みです。

Ⅱ.補足資料

- ・ 補足資料として、「セグメント別売上高・営業利益」等の実績をまとめております。
- ・ また、今回は、第1四半期の決算発表でもお話しさせていただきましたA種種類株式の取得・消却に関するリリースも、お配りさせていただいております。あわせて、ご確認いただければと思います。
- ・ 上期の業績は、中期経営計画の達成に向け、総じて順調に推移しました。
現在、当社は、今後のさらなる成長のため、「量から質へ」の転換に取り組んでおります。
これにより、事業拡大を継続するだけでなく、さらなる収益力の強化と財務体質の改善をめざします。
そして、株主をはじめ、ステークホルダーの利益の最大化を図ってまいります。
- ・ ご清聴ありがとうございました。

連結業績概要

(単位:十億円)

	2017年度			2018年度		
	上期	下期	通期	上期実績	下期差引	通期予想
売上高	1,115.1	1,312.1	2,427.2	1,129.0	1,561.0	2,690.0
営業利益	40.5	49.5	90.1	47.0	65.0	112.0
(利益率)	(3.6%)	(3.8%)	(3.7%)	(4.2%)	(4.2%)	(4.2%)
経常利益	41.1	48.1	89.3	43.2	57.8	101.0
(利益率)	(3.7%)	(3.7%)	(3.7%)	(3.8%)	(3.7%)	(3.8%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	34.7	35.4	70.2	40.9	49.1	90.0
(利益率)	(3.1%)	(2.7%)	(2.9%)	(3.6%)	(3.1%)	(3.3%)

SHARP

16

四半期 連結業績概要

(単位:十億円)

	2017年度				2018年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	506.4	608.7	714.2	597.8	533.8	595.1
営業利益	17.1	23.4	29.7	19.7	24.8	22.2
(利益率)	(3.4%)	(3.9%)	(4.2%)	(3.3%)	(4.6%)	(3.7%)
経常利益	17.1	23.9	29.9	18.2	21.2	21.9
(利益率)	(3.4%)	(3.9%)	(4.2%)	(3.0%)	(4.0%)	(3.7%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	14.4	20.2	20.6	14.8	19.2	21.7
(利益率)	(2.9%)	(3.3%)	(2.9%)	(2.5%)	(3.6%)	(3.7%)

SHARP

17

セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2017年度			2018年度
	上期	下期	通期	上期
スマートホーム	290.6	317.3	607.9	300.6
スマートビジネスソリューション	154.4	163.6	318.0	158.4
IoTエレクトロデバイス	200.4	304.0	504.5	250.8
アドバンスディスプレイシステム	521.6	564.9	1,086.5	458.2
小計	1,167.2	1,349.9	2,517.2	1,168.1
調整額	-52.0	-37.8	-89.9	-39.1
合計	1,115.1	1,312.1	2,427.2	1,129.0

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2017年度			2018年度
	上期	下期	通期	上期
スマートホーム	20.4 (7.0%)	23.2 (7.3%)	43.7 (7.2%)	23.3 (7.8%)
スマートビジネスソリューション	9.7 (6.3%)	12.2 (7.5%)	21.9 (6.9%)	9.0 (5.7%)
IoTエレクトロデバイス	2.7 (1.4%)	0.5 (0.2%)	3.3 (0.7%)	0.2 (0.1%)
アドバンスディスプレイシステム	16.3 (3.1%)	20.6 (3.7%)	37.0 (3.4%)	19.0 (4.1%)
小計	49.3 (4.2%)	56.7 (4.2%)	106.0 (4.2%)	51.6 (4.4%)
調整額	-8.7	-7.1	-15.9	-4.6
合計	40.5 (3.6%)	49.5 (3.8%)	90.1 (3.7%)	47.0 (4.2%)

※()内の数字は営業利益率です。

四半期 セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2017年度				2018年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
スマートホーム	130.2	160.4	148.9	168.3	150.5	150.0
スマートビジネスソリューション	70.3	84.0	77.3	86.2	76.5	81.9
IoTエレクトロデバイス	85.0	115.4	192.2	111.8	113.3	137.4
アドバンスディスプレイシステム	249.6	271.9	314.6	250.2	211.1	247.1
小計	535.3	631.9	733.2	616.7	551.5	616.6
調整額	-28.8	-23.1	-18.9	-18.9	-17.6	-21.4
合計	506.4	608.7	714.2	597.8	533.8	595.1

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

四半期 セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2017年度				2018年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
スマートホーム	9.9 (7.6%)	10.5 (6.6%)	10.6 (7.2%)	12.5 (7.5%)	11.8 (7.9%)	11.4 (7.6%)
スマートビジネスソリューション	3.8 (5.4%)	5.9 (7.0%)	4.1 (5.3%)	8.1 (9.4%)	3.9 (5.2%)	5.0 (6.1%)
IoTエレクトロデバイス	0.9 (1.1%)	1.8 (1.6%)	4.6 (2.4%)	-4.0 (-3.7%)	0.6 (0.6%)	-0.3 (-0.3%)
アドバンスディスプレイシステム	6.7 (2.7%)	9.6 (3.5%)	13.1 (4.2%)	7.4 (3.0%)	10.5 (5.0%)	8.4 (3.4%)
小計	21.4 (4.0%)	27.8 (4.4%)	32.6 (4.4%)	24.0 (3.9%)	27.0 (4.9%)	24.5 (4.0%)
調整額	-4.3	-4.4	-2.8	-4.3	-2.2	-2.3
合計	17.1 (3.4%)	23.4 (3.9%)	29.7 (4.2%)	19.7 (3.3%)	24.8 (4.6%)	22.2 (3.7%)

※()内の数字は営業利益率です。

設備投資・減価償却費等

(単位:十億円)

	2017年度			2018年度		
	上期	下期	通期	上期	下期差引	通期予想
設備投資	73.2	46.1	119.3	27.8	72.2	100.0
内:ディスプレイ	16.7	18.7	35.5	9.2	30.8	40.0
減価償却費	28.8	39.6	68.4	34.5	45.5	80.0
研究開発費	50.2	50.2	100.5	53.8	56.2	110.0

(単位:円)

平均為替レート	2017年度			2018年度	
	上期	下期	通期	上期	下期予想
米ドル	110.07	109.64	109.86	109.27	105.00
ユーロ	124.79	131.62	128.20	128.34	128.00

四半期 設備投資・減価償却費等

(単位:十億円)

	2017年度				2018年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
設備投資	18.8	54.4	33.7	12.3	11.3	16.4
内:ディスプレイ	3.2	13.5	11.0	7.7	4.4	4.7
減価償却費	14.1	14.6	19.4	20.1	17.1	17.3
研究開発費	28.7	21.5	30.8	19.3	30.4	23.3

(単位:円)

平均為替レート	2017年度				2018年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
米ドル	110.10	110.04	111.98	107.30	108.07	110.46
ユーロ	120.69	128.88	131.51	131.73	128.56	128.12

SHARP

Be Original.

